

# 群馬避難総合対策チーム全体会議（第7回）

## 議 事 要 旨

### 1 日 時

令和7年6月26日（木） 10:00～11:15（WEB会議）

### 2 出席者

- ・ 市町村防災担当部課(室)
- ・ 県関係部課
- ・ 外部関係機関
- ・ 前橋地方气象台、特定非営利活動法人日本防災士会群馬県支部、社会福祉法人群馬県社会福祉協議会、群馬県災害派遣福祉チーム（ぐんまDWAT）
- ・ アドバイザー（金井アドバイザー、阪本アドバイザー）

### 3 議 事

- ・ 令和6年度事業報告及び令和7年度事業予定について
- ・ 避難ビジョンのKPIの状況について
- ・ 令和8年度以降の避難対策について

### 4 議 事 要 旨

出席者からいただいた主な御意見は次のとおり

- ・ ビジョンの取組を継続していただきたい。この総合対策チーム含め、県庁主体で35の県内の市町村の防災担当等に顔の見えるつながりができたので、今後も、群馬県全体（35市町村）が問題を共有できる形は残していただきたい。
- ・ 個別避難計画チームやベッドチームについて、訓練の実施については、訓練の目的を明確にしたり、協定内容を確認したりし、それと整合するような訓練内容を考え、実施していただきたい。
- ・ トイレチームでは、県民意識と県民の備えがほとんど進んでいないため、PR周知が必要だと考える。トイレコンテナもその機会の一つとして検討いただきたい。
- ・ フードチームでは、連携先のキッチンカーにステッカーやポスターを作り、キッチンカーは災害時に支援することをPRしてはいかがか。
- ・ 今後は、作った計画の実効性高めるための訓練や、県民への周知が非常に大事になるため、アイデアを絞って一緒に頑張りたい。
- ・ 災害時に本当に運用できるよう、運用体制にまで踏み込んで民間業者を含めて具体的に検討していただきたい。
- ・ 要配慮者の受け入れは福祉施設のみでは厳しく、民間の宿泊施設なども含めて二次避難のあり方を検討する必要がある。また二次避難先に食事やトイレなどが整備されるのかという点も大きな課題となる。チーム間の連携体制の確認のためにも、二次避難を想定した訓練をすべてのチームの参加の中で行うのがよい。
- ・ 県民の7割がトイレを備蓄していないというアンケート結果にはかなり驚いた。群馬県避難ビジョンが掲げる「自らの命は自らが守る」や、「避難生活の質を向上させる」ということは、行政だけでは達成できない。県民の意識向上まで持っていけるように、これから先もこの避難ビジョンの検討を続けていただきたい。

以上